

## うしく平和の会 第1回学習会を開催

### 元琉球大学教授・太田昭臣さん 「変わる沖縄 変わらない日本」



3月30日(水)、午後2時から、「変わる沖縄 変わらない日本」という題で沖縄に関する学習会を開催しました。講師は元琉球大学教授である太田昭臣先生。太田先生は著名な教育学者です。昨年琉球大学を昨年退任し、現在は茨城県牛久市に在住。昨年12月末、「うしく平和の会」が結成された際、3人の代表委員を選出しましたが、そのうちの1人として快く引き受けてくれました。

沖縄はもともと独立国で、「琉球国」といい、交易を中心に独自に発展していました。400年前に薩摩藩の侵攻による軍事支配がはじまり、その後、明治政府の「琉球処分」があり、第2次大戦では唯一地上戦がたたかわれました。沖縄の人たちは地上戦に

駆り出され多くの尊い人命が失われました。地上戦の中で、悲惨な「ひめゆりの塔」の話だけでなく、15歳から18歳くらいの若者の多くが戦闘員や斥候として駆り出され、多くが命を落としたのです。

また日本にある米軍基地の74%が、国土面積0.4%の沖縄に集中しているひどい現状がありますが、最初からそうだったわけではなく、本土にあった米軍基地に対する地元の人たちの反対運動が広がるなかで、多くの米軍基地が沖縄に移設された結果でした。

当日の参加者は37人。質問も多く、予定を30分以上オーバーして終了しました。うしく平和の会では、今後も太田先生を囲んで、沖縄に関する学習会を継続することにしています。

## 茨城県平和委員会の大会までの日程について

2000万署名、憲法フェスティバル開催などの取り組みの中、今年大会が近づいてきました。7月の参院選は、衆参ダブル選になる可能性が大きくなっています。また「参院選の前に衆院選」なども取りざたされています。暴走する安倍政権は「憲法改悪のためなら何でもやる」状況になっています。日程を確認し、万全の備えで大会を成功させましょう。

### ▼代表理事懇談会 5月7日(土) 10:00～ 事務局

- ・ 情勢・議案構成・内容、財政等の柱立てを協議します。

### ▼常任理事会 5月14日(土) 13:00～ 事務局

- ・ 情勢・議案構成・内容、財政等について協議します。
- ・ 役員推薦等を協議します。
- ・ 国内外の情勢は5/25発行の平和新聞を参照します。

### ▼理事会 5月28日(土) 13:00～ 青少年会館

- ・ 議案は1週間前に送付します。
- ・ 大会議案等を決定します。

### ▼定期大会 6月19日(日) 10:00～ 青少年会館

- ・ 各平和の会・平和委員会は代議員を選出し事前に報告します

### ▼その他

- ・ 「大会議案」は大会1週間前までに代議員に届けます。
- ・ 各平和の会・平和委員会は「とりくみの報告」を大会開催前に提出願います。
- ・ 「大会招請状」を大会1ヶ月前に届けます。代議員数を確認します。

## つくば市平和委員会

### 初仕事に「標的の村」上映会



昨年9月の県平和委主催沖縄支援ツアーに折り込みチラシを見て参加したつくば市在住の7人が、「何かしたいねえ」から、「標的の村」を見たいねえということでとりくみがはじまりました。できたてのつくば市平和委員会メンバーを中心に2月実行委立ち上げ、3月27日上映の短期勝負となりました。運動はおもに諸団体への協力をもとめ、前売りチケットなしのチラシ配布が中心となりました。

当日は、14人が準備に関わり、午後から2回上映で140人ほどに観ていただきました。高校前でも1度宣伝しましたがゼロ(青年を何とかと思ってましたが...)。でも中学は2人でした。上映中はすすり上げる気配があちこちであり、終わって大きな拍手となりました。高江のたたかう様と楽天性がよくわかり共感の思いが残ったようです。受付で名護市作成「米軍基地のこと 辺野古移設のこと」パンフと「高江兵糧カンパ」封筒他をお渡し、なんと8万円を越すカンパが寄せられました。

アンケートは35人にこたえていただき、次回企画で「戦場ぬ止め」上映期待が31人、沖縄支援に11人が、次回企画に16人が協力とありました。翌週に反省会を催しましたが、だれもが感動したといい、同時に今度は赤字を出さない企画にしようという誓い合いました。(つくば市平和委員会:山中)

## 平和の会しもつま 第1回定期総会開催

### 討議のあとは、交歓会!

### 2名の新入会員を迎える

昨年9月に発足した「平和の会 しもつま」。半年が経過した4月2日、第1回総会を開きました。県平和委員会から木村事務局長の出席があり、会員は13名中遅れた人を含めて10名が出席。何とか体裁の取れた総会になりました。

活動と財政の報告に続き、今後のとりくみについて討議。2000万署名は、2回の集約日を決め、29日に県委員会に届けることにしました。

憲法フェスティバルは、団体として賛助金1口・3000円を拠出し、当日は車の相乗りで一緒に行こうと決めました。

半年～1年の見通しでは、本会主催の映画会やコンサートなど、何か1つは実行しよう。また他団体との共催、さらに「市民連合」の県西版を視野に入れた討議もやって行こうなどの意見も出て、午前中の2時間はたちまちのうちに過ぎました。

昼食は15名が参加。平和の会家族会員の手作りの筍の混ぜご飯・けんちん汁・煮物・漬け物のごちそうに舌鼓をうち、満腹。



続いて2時間、アルコール等の飲み物で舌を滑らかにして交歓会。自己紹介を兼ねた発言を聞くうちに、思わぬつながりや共通の知り合いなどを発見。いろんな方面に話題沸騰で、楽しくざっくばらんな雰囲気終始しました。

そんな中で、なんと2名の新入会員を迎えることになり、万々歳の幕となりました(平和の会しもつま:青木)



## 平和新聞

2016年4月15日(金曜日)

2107号(毎月5,15,25日発行)

1950年12月16日第三種郵便物許可 発行 日本平和委員会  
1部140円 月額400円 〒105-0014 東京都港区芝1-4-9 平和会館  
(郵送料月額120円) 電話03(3451)6377 FAX03(3451)6277

## 平和かわら版 平和新聞茨城版 No. 745

2016.4/15  
発行: 茨城県平和委員会 〒310-0912 水戸市見川5-127-281  
Tel/Fax 029-251-2806 E-mail ibahei@amber.plala.or.jp

**役員が先頭で各県や町の友人・知人に！**  
**会員の皆さんも、ご一緒に訴えて提出を！**  
**2月分集約100筆！**



守谷平和の会ニュース (No239 3/15号より)

「戦争法廃止・2000万署名」の取り組みが全国で行われています。守谷平和の会は、他団体より遅れて始まりましたが、2月の目標を100筆と決めて、目標を達成しました。そして3月の目標も100筆と決めて奮闘しているところです。

役員の水野さんは、署名行動の開始以来、親戚、友人、知人に手紙を送り訴えています。送り先は、北海道、東京、千葉、神奈川県、静岡、大分等々に返信用封筒を入れて発送していたものです。

その到着分が43筆となって2月の集約の4割強が水野さんでした。その返信の中に以下の内容が書かれたものがありました。

**水野さんへ来た手紙**

「水野一成様 拝啓 お手紙ありがとうございます。内容を拝見させていただきました。お元気で活躍されているうで何よりのことと思います。この度の戦争法につきましては、私も同感です。法案の審議中、私は仕事にインターネットですべての国会中継を見ておりました。その状況は、とても日本を代表すべく政府関係者の答弁とは思えませんでした。思考停止に陥った現在の日本は、とても容認できるものではないと思います。

先の大震災をきっかけに、海外から日本文化の良さが認められたことに私は少しの自負の気持ちもあったと感じていますが、今日この頃その光明も一気に失われてしまいそうです。一部の人間のための政治であってはならないとも思います。

世界に誇れる日本に戻すため、ここに戦争法案反対の署名を送らせていただきます。 よろしく願いいたします。 敬具

2016.02.29」

その他にも、亡くなられた知人の奥さんからはご自身が学生時代に60年安保に参加し、公安に付きまわられたことや、小学校の頃に登校途中で機銃掃射にあったこと、戦後の人心の荒廃や食料事情のひどさなど、未来の子どもたちにそんな思いをさせたくないことなどがつづってありました。

斉藤会長も、北海道や新潟、大阪、静岡に手紙を送り、知人より「哲さま 頑張っていますね。本当に戦後70年、国民が築き上げてきた平和国民への約束、戦争しないと表明し、信頼されてきたのに、許すことはできません」と書き添えてありました。

**2000万署名到達**

**全国554万2891筆 (3/30現在)**

憲法共同センターは、戦争法廃止2000万署名が3月30日(水)現在で、554万2891筆(3月18日現在で414万9277筆だった。)が集約されていることを明らかにしました。

なかでも新日本婦人の会が全国100万筆を目標に取り組んでおり、3月29日現在、72万9000筆を達することも報告されました。最終集約は5月3日(火)。提出する日程については今後発表されます。

県平和委員会の目標は「1人10筆以上」、「総計10,000筆以上」です。残りはあと3週間。

ラストスパートをかけ、悔いのない取り組みを進めましょう。

また、国会前抗議行動が、以下の日程で計画されています。

**戦争法廃止！国会周辺の抗議行動も大きく！**

**▼戦争法発動させない！ 戦争する国許さない！ 安倍内閣は退陣を！ 4.19議員会館前行動**

とき 4/19 (火) 18:30～

ところ 衆議院第2議員会館前～国会図書館前

.....

**▼戦争法発動させない！ 戦争する国許さない！ 安倍内閣退陣を！ 5.19議員会館前行動**

とき 5/19 (火) 18:30～

ところ 衆議院第2議院会館前～国会図書館前

.....

**▼戦争法廃止！安倍内閣退陣！ 6.5国会前大行動 (仮称)**

**国会周辺・国会包囲10万人、全国100万人行動**

とき 6月5日 (日) 14:00～

ところ 国会周辺



**映画紹介**

**「司法の闇」に迫るドキュメンタリー映画**  
**「ふたりの死刑囚」**

名張毒ぶどう酒事件の奥西勝氏と、袴田事件の袴田巖氏。死刑判決が確定しながらも長年にわたり冤罪を訴えて、再審を請求しつづけてきた二人とその家族を描いたドキュメンタリー映画「ふたりの死刑囚」が2016年1月から公開されています。

(制作：東海テレビ)



**30歳の女性監督がとらえた「再審を求める死刑囚」の実像**

「名張毒ぶどう酒事件」が起きたのは、いまから半世紀以上も前の1961年のことです。三重県名張市の小さな村で開かれた懇親会で、ぶどう酒を飲んだ女性5人が死亡しました。ぶどう酒を運んだ奥西勝死刑囚が殺人容疑で逮捕され、警察にいったん自白したものの、その後「自白は強要されたものだった」として潔白を主張していました。一審では無罪判決を受けましたが、二審で有罪となり、1972年の最高裁で死刑が確定しました。

それ以来、無実を訴えて再審を求め続けましたが、かなうことなく、2015年10月上旬に89年の生涯を閉じました。東海地方で起きた重大事件ということもあり、名古屋市に拠点をおく東海テレビは、名張毒ぶどう酒事件を継続的に取材し、事件をテーマにしたドキュメンタリーをこれまでに5本、制作してきました。「ふたりの死刑囚」はその最新作で、30歳の鎌田麗香ディレクターが監督を務めました。

本作の特徴は、2014年3月に再審開始の決定を受け、48年ぶりに釈放された袴田巖死刑囚に密着取材し、奥西勝氏と袴田巖氏という「ふたりの死刑囚」を対比しながら描いていることです。半世紀ほど前に凄惨な殺人事件の被疑者として逮捕され、いったん自白したものの、途中から一貫して潔白を主張して、裁判のやり直しを求め続けたという点で、両者は共通しています。

しかし、一方は釈放が認められ、一方は願いがかなわぬまま獄死しました。映画は、彼らを支援してきた家族や弁護士の姿も紹介しながら、二人の共通点と相違点、そして、多くの矛盾をはらんだ「司法制度の闇」を明らかにしています。